

発行所 若宮八幡社社務所
〒873-0004
大分県杵築市大字宮司336番地
発行者 宮司 紀田兼宣
電話 080(5503)3488

若宮八幡社 金鷹山 検索
神社公式ホームページ
開設しております。
御覧ください。

祝祭日には国旗を掲揚致しましょう

きん たか やま
金鷹山



大分県無形民俗文化財「若宮楽の市」平成30年9月16日に奉納されました

巻頭言 御代替わりを来春に控えて
この国の行く末を慮る

あるが、何とここに来て、運転免許証の表記が、改元する時を同じくして、有効期限が西暦表記に変更されるらしい。警察庁によると外国人にも分かり易くするためとの理由であるが、生年月日や交付日は現行通り元号で表記するため、1枚の運転免許証に和暦と西暦が混在することになる。▲これから改元に向かい、世論が元号の在り方につき意見が取り交わされることになるのであるが、世界で唯一元号を取り入れている我が国の伝統をもう少し熟慮する時期に来ているのだろうか。▲「明治維新」、「大正デモクラシー」や「昭和恐慌」などの名称も元号があつて初めて成り立つのだし、歴史の教科書から、そのうち「江戸時代」「鎌倉時代」「戦国時代」などの呼び方も無くなってしまうのでは？と考えるのは行き過ぎだろうか。▲「平成」の看板を公表したときの小淵恵三・当時の官房長官の映像を見るたびに、三十年という長くも短くもあつた御代を今上陛下に御守り戴いたことに感謝を申し上げ、次の時代に希望を持って邁進し、次の世代に胸を張って素晴らしい日本国を引き継いでいこうではありませんか。今を生きる我々一人ひとりが、現代の歴史に息づく青人草なのですから。

皆様方が既にご存知のように、来年の四月三十日を以て「平成」の御代が終わろうとしております。翌五月一日からは新しい元号で新帝陛下のもと、我々日本国民は共に手を取り世界との共存共栄とを「敬神生活の綱領」さながらに祈るばかりである。▲新しい元号は来春に発表になるとのことであるが、6月25日の産経新聞で、「新元号どう決める」と題した記事には次に要約されている。▲昭和五十四年に制定された元号法により、①国民の理想として相応しい良い意味を持つ②常用漢字2文字③読みやすい④書きやすい⑤外国も含め過去に元号やおくり名として使用されていない⑥俗用されていないなどの基準を定めているとのことである。▲「平成」の時には他に「修文」と「正化」も候補にあつたが、アルファベットの大文字が昭和と同じ「S」とならない配慮から最終的に「平成」に決まった経緯がある。▲日本の元号は西暦645年に孝徳天皇が定めた「大化」に始まり、「平成」に至るまで、千三百年余りの間に247を数えるらしい。記事の中では識者により「開安」「道立」「順理」「喜永」などと次の元号を予想していた。▲いずれにせよ新しい元号を我々日本人は有難く戴くばかりで

平成三十年 金鷹山若宮八幡社例大祭齋行(詳細は4頁に記載)

●十二月一日(土) 午前 九時 例大祭(於 御本殿)
午後 十時 神輿お下り神事(御旅所に向かう)
午後 一時 みさき神楽奉納(於 御旅所)
神楽奉納料 一件1500円也

●十二月二日(日) 午前八時三十分 長寿老人交通安全祈願祭(於 御旅所)
午後 一時 斗初穂奉納奉告祭(於 御本殿)
午後 三時 神輿お上り神事(御本殿に向かう)
若宮杯グラウンドゴルフ大会

※神賑行事
若宮杯ゲートボール大会
※神賑行事
若宮杯ゲートボール大会

平成の三十年間に感謝を致し来る御代に想いを馳せて

天皇陛下の御譲位及び皇太子殿下の御即位に伴う国の儀式等について

天皇陛下におかれましては、一昨夏に御譲位の意向を強く浸ませた「ビデオメッセージ」をご公表になられ、皇室典範の特例法が施行されることにより、来春には「平成」の御代が終わろうとしております。

このビデオメッセージのなかで、2点の注目すべきお言葉がある。

一つは、皇室祭祀に「全身全霊」を持って奉仕されることが困難となられていること……

余り知られていないことだが、天皇陛下の一番のお務めは、我々神職と同じように、祭祀の厳修になられることである。元日の四方拜に始まり大晦日の大祓に至るまでそれこそ日本国と日本国民の安寧を祈られております。

もう一つは最後に「国民の理解を得られることを切に願っています」と仰られていること……

この「国民の理解」というお言葉にすべてが込められているのではないのでしょうか。

今まで国民のために祈り続けられて戴きました大御心に感謝を申し上げ、来る御代に希望を抱き、素晴らしい日本の国創りを目指さなくてはならないと思います。

来年の天皇陛下の御譲位と皇太子殿下の御即位に伴う一連の儀式等は次の通りですので、皆様方も心のカレンダーに留め置いて下さると幸甚に存じます。



たかみくら 高御座(左)とみちやうだい 御帳台(右)



だいじょうぐう 大嘗宮の写真



だいじょうぐう 前回の大嘗祭

【天皇陛下の御譲位及び皇太子殿下の御即位に伴う国の儀式等】

《天皇陛下御在位三十年記念式典於国立劇場》
平成三十一年二月二十四日(日)

《天皇陛下の御譲位に伴う式典》
平成三十一年四月三十日(火)

《皇太子殿下の御即位に伴う式典》
於 宮中
平成三十一年五月一日(水)

《即位後朝見の儀》
於 宮中
平成三十一年十月二十二日(火)

《大嘗祭》
元年十一月十四日(木)

《新元号》
元年十月二十二日(火)

《大嘗祭(新元号)》
元年十一月十四日(木) 十五日(金)

大嘗祭(だいじょうさい)とは、天皇が即位の礼の後、初めて齋行される新嘗祭(にいなめさい)のことです。その年の新穀を天皇陛下が神に捧げ、御自らも食する新嘗祭を、一世二度として齋行致します。新穀を捧げる地域が卜定され、今上陛下の場合は悠基国(ゆきのくに・東日本から選定)として秋田県、主基国(すきのくに・西日本から選定)として大分県が選定され、大分県では玖珠地方の田圃で主基殿(すきでん)に供えるお米が作られました。

そして平成二十二年十一月二十二日の深夜から翌二十三日の未明にかけて大嘗祭が齋行されました。

来る平成四十七年度にむけて(仮称)「金鷹山若宮八幡社史」編纂の計画 まずは準備委員を募集

今を遡ること平安時代の寛和元年(西暦985年)に京都御山石清水八幡宮から四柱の御神体を奉戴し、現在の浜田社(元宮)に鎮祭されてより、来る平成四十七年度(西暦2035年)に、若宮八幡社は御鎮座千五拾年の嘉年を迎えることとなります。

その一連の記念事業の一環として、(仮称)「金鷹山若宮八幡社史」を、今後十七年をかけて編纂して参りたいと考えております。

しかしながら若宮八幡社の宮司及び総代のみでは、編纂刊行まで至るには専門的な知識に乏しく、

また総代さんも任期を終えると後継の総代さんに交代となってしまう。

そこでこの編纂事業に参画を戴ける方(準備委員)を募集致します。まずは数か月に一度若宮八幡社にご参集を戴き、準備委員会で気軽な意見交換会(ディスカッション)形式を取りたいと思っております。

数回を重ねるうちに、刊行に向けての年度計画や、詳細なる取り進め方を煮詰めていき、ある程度骨子が確立されましたら、改めて(仮称)「金鷹山若宮八幡社史 編纂委員会」を将来的に組織して参ります。

準備委員の募集人数は、四、五人程度とし、若宮八幡社や宮司区を中心として杵築郷土史に興味を持たれる方をお願いしたいと思います。

継続的に編纂委員としてもお願いたしますので、今後十年から十五年はご一緒にお願いただける方として、また恐縮ながら、神社事業の二環でのことなので、ボランティア(無償奉仕)と致します。

自薦他薦でも結構ですので、氏子崇敬者の参画を心よりお待ちしております。申し上げます。

開運祖霊講の永年の懸案 祖霊社を境内建立に向け秋分の日に地鎮祭を齋行 竣工は来春三月二十二日を予定

神道を宗旨とする家庭で組織される若宮八幡社開運祖霊講(講員 現在三十一名)の永年の懸案でありました「祖霊社」を若宮八幡社境内に建立する運びとなりました。

開運祖霊講は、毎年春と秋の彼岸中日に祖霊祭を齋行し、各講員のご先祖をお迎えし、今あることに感謝の気持ちを玉串に込めて祈りあげておりますが、祖霊社が建立されていないため、神

事の都度若宮八幡社の本殿に標柱を弁備し、各ご家庭のご先祖様を招魂の上齋行申し上げておりました。

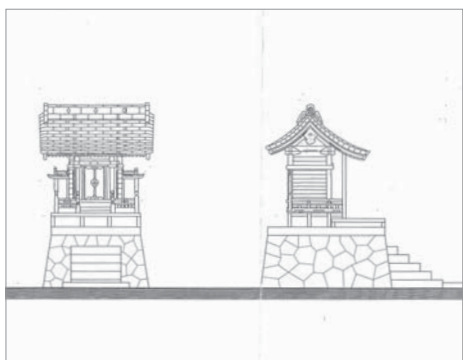
神道の在り方としては、やはり祖霊社が建立されていた方が望ましいとの観点から、この度祖霊社を建立することと相成りました。

若宮八幡社の責任役員会及び総代会の承認また神社本庁の承認を得て、去る九月二十三日(日・秋分の日)に恒例の秋季祖

霊祭を若宮八幡社本殿で齋行後、場所を建立予定地に移動の上、祖霊社地鎮祭を齋行申し上げます。

予定ですと、平成三十一年三月二十一日(木・春分の日)に竣工祭及び鎮座祭を齋行致します。

一般の方の募財も承っておりますので、ご希望の方は社務所までご連絡下さるか、書類一式を社頭でお配りしております。 宮司携帯08055033488



祖霊社完成予想図



拝殿横の建設予定地



拝殿と土蔵の間に建設

毎月一日を嘉日と寿ぎ「朔日祭・おついたち」の斎行 健やかな一ヶ月の始まりは金鷹山で

この度、紀田宮司本務神社である金鷹山若宮八幡社に常駐することに伴い、更に恒例神事や祈願につきまして、充実した体制を整えて参ります。

その一環として、毎月一日午前六時から「朔日祭・おついたち」を斎行(但し二月一日のみは「歳旦祭・さいたんさい」致します)。

毎朝午前六時にも神様に朝ご飯を差し上げる「朝御饌祭・あさみけさい」を斎行致しておりますが、毎月一日を吉日として朔日祭を斎行することと相成りました。

朔日祭・朝御饌祭ともにどなたでも参列が可能(無料)ですので、氏子崇敬者の皆様方のご来駕を心よりお待ち申し上げる次第にございます。

【朔日祭の式次第】

- ① 手水(てみず)身を清める
 - ② 号鼓(午前六時に鳴らします)
 - ③ 瞑想(気持ちを解き放ち鎮める)
 - ④ 修祓(しゅばつ)更に身を清める
 - ⑤ 一拝(神様にご挨拶)
 - ⑥ 献饌(お供え物を差し上げます)
 - ⑦ 大祓詞奏上(一緒に唱えます)
 - ⑧ 祝詞奏上(氏名も奏上)
 - ⑨ 玉串奉奠(たまぐしほうてん)
 - ⑩ 撤饌(お供え物をお下げします)
 - ⑪ 一拝(神様にご挨拶)
 - ⑫ 号鼓(朔日祭の終了です)
 - ⑬ 宮司のお話し(時節の口話)
 - ⑭ 茶話会(概ね三十分で終了)
- 【朔日祭のお下がり】
- ・ご自分で奉奠された玉串
 - ・撤下の神米と神塩(お裾分け)
 - ・そして神様の愛情と御神徳

お子様は日本の宝 健やかな成長を祈念する七五三詣

金鷹山ならではの「七五三詣」を受けになりますか? 事前にお申込みになり、貴家のみで七五三祈願を厳修致します。また併せて、赤ちゃんの初宮詣や車の交通安全・厄除け・家内安全・健康息災・開運招福・心願成就などの祈願も厳修致します。

金鷹山若宮八幡社七五三詣 祈願料

- お子様お一人 5千円也
 - お2人目は3千円(合計8千円)
 - お3人目は2千円(合計1万円)
- お下がり
- 七五三のお札とお守り(金鷹守)
 - お箸・朝御饌祭のお米(撤下米)
 - 千歳飴・七五三矢・お菓子ほか
 - そして神様の愛情とお蔭さま



七五三詣のお下がり



健やかな成長を玉串に込めて



初宮詣のお下がり (一部)



第1回金鷹山フォトコンテストのお知らせ 古写真や平成の写真まで公募します

この度初めての試みとして「第1回金鷹山フォトコンテスト」を開催致します。

左記の募集要項をご覧の上奮ってご応募下さい。撮影時期なども特に問いませんので、昭和初期の写真や、懐かしい牛馬市や若宮楽や御田植祭などの神事の写真など皆様方がお持ちになっているものを是非とも多数お持ち下さい。

展示場所は、神社拝殿に特設展示場を設けますので、多数お越しを戴き、金鷹山フォトコンテストをお楽しみ下さると幸甚に存じます。

問合せ 紀田宮司携帯 080-5503-3488まで



牛馬市の模様



御田植祭の模様



御田植祭後の集合写真



楽の市後の集合写真

第1回金鷹山フォトコンテスト 作品の募集について

《募集要項》

- ① 金鷹山若宮八幡社を崇敬される方なら性別・年齢・職業・国籍を問わずどなたでも応募できます
- ② 若宮八幡社及びその関係者を誹謗中傷する写真や、公序良俗に反すると見なされる写真は受け付けません
- ③ 撮影時期は問いません。過去に撮影した古写真でもOKです
- ④ 応募点数は一人当たり3点までとします
- ⑤ 出品料は無料です
- ⑥ 著作権は若宮八幡社に帰属し若宮八幡社が出版物・神社公式HP・ポスターなどで自由に使用できるものとします
- ⑦ デジタルカメラ・フィルムカメラ・カラー写真・モノクロ写真を問いませんが加工合成は不可とします
- ⑧ 応募はプリントのみとして展示の都合上A4判に限定します
- ⑨ 他人の著作権や肖像権を侵害する行為は厳に慎んで下さい
- ⑩ 応募作品は返却しません

《募集期間》

平成30年11月25日(日)まで承ります

《展示期間》

平成30年12月1日(土)～平成31年1月14日(月・成人の日)まで
若宮八幡社拝殿内に於いて特設展示を行います

《その他》

- ① 応募ご希望の方は、紀田宮司携帯にご連絡下さるか若しくは若宮八幡社の社頭と麻生写真館に参加書類一式をご用意しておりますのでお問い合わせ下さい
- ② 所定の応募用紙に必要事項を記載、写真それぞれに貼付の上社務所若しくは紀田宮司自宅の郵便ポストに投函下さい(折り返し応募作品受納のご連絡を致します)
- ③ 今回初めての試みにて、表彰はございません

《問合せ先》

若宮八幡社 紀田宮司携帯 080-5503-3488 まで

年に一度の重儀「若宮八幡社例大祭」近づく 神様は神輿で頓宮にお下り御駐輿

間もなく吉例の「若宮八幡社例大祭」が近づいて参ります。

例大祭とはその神社の年間神事の中で最重儀とされる祭典で、神様が鎮座された日や、その神社にとって一番ゆかりのある日に神社本庁より幣帛料(へいはくりょう)が奉奠されて斎行されます。

【本年の例大祭日程】

●十二月一日(土)《第1日祭》

午前 九時 例大祭(巫女お神楽)
午前 十時 神輿お下り
午後十三時 みさき神楽奉納
(神賑 若宮杯ゲートボール大会)

●十二月二日(日)《第2日祭》

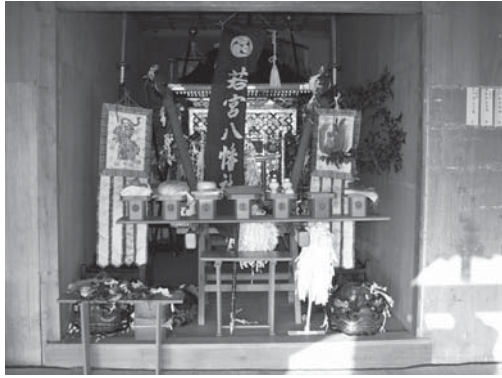
午前八時三十分 長寿交通安全祈願祭
午後十三時 斗初穂奉納奉告祭
午後十五時 神輿お上り
(神賑 若宮杯グラウンドゴルフ大会)

※斗初穂(とはつぼ)とは?

昔は、お米一斗を神様にお供えしておりましたが、現在は一年で三千元を十か年で満額3万円として完納者は参道両脇に斗初穂奉納芳名石碑を建立します。



例大祭・お下り



御旅所の神輿



お下り奉仕の方々



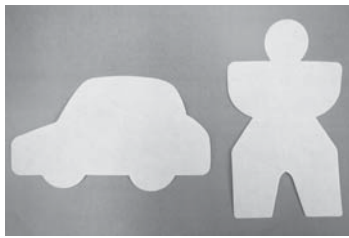
例大祭・お上り

平成三十年も残りあとわずか 一年間の罪や穢れを人形に託して 清々しい平成三十一年正月を 迎えましょう

人は人として生きていく限り、罪や穢れを免れることは出来ません。我々人間は、毎日お米や肉や魚、野菜や果物など生きていく生命を頂戴することにより生きていくのです。

だから食前には無意識ながら手を合わせて(大切な命を)「戴きます」と唱和してから食事をするので。以前何かの話で、学校で食前の「戴きます」を唱和しようとしたら、親御さんから『うちは給食費を払っているのだから、「戴きます」は致しません』というクレームがあったとのこと。これは日本人の嗜みの教育として有るまじきことではないでしょうか。

やはり命を戴くことに感謝を申し上げ、日々生活の営みを送ることが出来る……これが一番の幸せとは言えるのではないのでしょうか。毎日の生活の営みの中で知らず知らずのうちに犯してしまつた罪や穢れを「人形・ひとがた」に託すことにより、清々しい平成三十一年の正月をお迎えになりますことをお勧め申し上げます。



大祓人形と車形



伊勢神宮大麻と若宮八幡社大麻

【平成三十年 若宮八幡社
除夜祭並びに年越大祓・除夜祭】
十二月三十一日(月)
午後五時から斎行致します。

当日は朝から若宮八幡社の総代さんが迎春の準備を行います。注連縄を張つたり、正月のお札やお守りをお頒ちする「授与所」の設営、また氏子の皆様方がご自宅や職場で一年間お祀りしたお札やお守り(古札)をお焚き上げする応対の諸準備など、色々忙しい一日を送りながら正月の諸準備が整つた午後五時に斎行致します。一般の方も勿論自由にご参列戴けますので、是非ともご来駕の程何卒宜しくお願い申し上げます。

※左の写真にあります「人形と車形」は、若宮八幡社の社頭でお頒ちしております。
(ひとがた) 〇〇〇〇円
※また、伊勢神宮のお札(神宮大麻)と若宮八幡社のお札(神輿大麻)もそれぞれ一俵八〇〇円でお頒ち致しております。
紀田宮司携帯電話番号
080-5503-3488まで

紀田宮司出向奉仕・事業報告

一月 一日 歳旦祭	七月 一日 若八幡本社根付籠祭
一月 三日 元始祭	七月 二日 鴨川根付籠祈願祭
一月 七日 宮司区新年祈願	七月 十五日 東大内半夏水生神祭
二月 七日 草場地区屋敷祭	七月 二十四日 宮司区草刈清掃作業
二月 十一日 紀元祭	七月 二十五日 大内天満社夏祭
二月 二十一日 神道政治連盟九州地区研修会	八月 十五日 氏子中元祭
三月 十日 開運祖霊講三役会	九月 二日 開運祖霊講三役会
三月 十一日 八坂神社春祭	九月 九日 東溝井妙見神社祭
三月 十三日 東溝井秋葉神社祭	九月 十三日 国民精神昂揚研修会(十四日まで)
三月 十八日 大片若宮八幡社祭	九月 十六日 仲秋祭・楽の市
三月 二十一日 春季祖霊祭	九月 二十三日 秋季祖霊祭
三月 二十五日 開運祖霊講総会	九月 三十日 祖霊社地鎮祭
四月 三日 宮司区総会	十月 七日 若八幡本社御願成就
四月 三日 神武天皇祭	十月 七日 若八幡本社御願成就
四月 六日 若八幡本社春季大祭(祈年祭)	十月 二日 若八幡本社秋季大祭
四月 六日 御田植祭	十一月 一日 朔日祭開始(毎月一日)
四月 七日 神前結婚式斎行	十一月 三日 紀田宮司常駐となる
五月 十三日 神明社祭	十一月 十五日 明治天皇祭
五月 二十六日 大分県神社庁雅楽	十二月 三日 新嘗祭
五月 二十七日 及び風俗舞研修会	十二月 一日 例大祭(二日まで)
六月 三日 速見支部会	十二月 二日 若八幡本社例大祭
六月 七日 速見支部研修旅行	十二月 二日 大内天満社冬祭
六月 九日 皇太子殿下ご成婚満二十五年奉祝祭	十二月 九日 八幡神社祭
六月 十四日 玖珠瀧神社	十二月 十三日 東溝井秋葉神社祭
六月 二十三日 五穀豊穣祈願祭	十二月 十三日 天皇陛下御誕生祭
六月 二十四日 紀田兼昭大人命三年祭	十二月 二日 年越大祓・除夜祭

編集後記

紀田宮司のつぶやき

昭和五十九年四月に神奈川県・相模國一之宮寒川神社に奉職をはじめ、福岡県・筑後國一之宮高良大社と合わせて三十有余年の奉仕を経て、この度父祖伝来の金鷹山若宮八幡社に常駐奉仕を致すことと相成りました。▲その間には、良き宮司様方の薫陶を戴き、神職とは何か……との篤きご指導ご鞭撻を賜り、杵築の里に帰省致しましたこと、これ偏に皆様方のお徳と感謝申し上げる次第にございます。▲しかしながら、順風満帆とはほど遠く、「？」を感じながら務めていた自分も居たこともまた事実であります。これ

からは、一人宮司の神職として、全て自分の考えで取り進めることが出来る反面、自分の責任において慎重に祭儀の厳修を考えて行かなくてはならないことに、身の引き締まる思いが致します。▲来春には愈々御代替わりが近づいて参りましたが、「昭和」から「平成」に移る時を思い起こし、新しい陛下を戴き、素晴らしい国創りに邁進する日本国民の一人でありたいと肝に銘じております。▲寛和元年(985年)に京都石清水八幡宮より勧請し、初代紀兼貞公が浜田社に鎮齋されてより、小職で三十四代目となり近い将来に御鎮座壹千五拾年という佳年を迎えることは、代々の宮司がお導き戴いたものと深く思いを致すばかりでございます。

紀田宮司がこの度若宮八幡社に常駐します
初詣は金鷹山で祈願をお受けになりませんか？

お守り
お札も
充実

金鷹山 若宮八幡社

初詣

若宮八幡社
〒873-0004 大分県杵築市宮崎336 tel.0978-62-3237
http://wakamiyahachimansho.com

この度、紀田宮司が金鷹山若宮八幡社に常駐することと相成りましたことに伴い、祈願につきましても充実した対応が出来るようになりました。出来ましたら事前のご予約をお願い致します

【若宮八幡社初詣祈願祭】

祈願料 五千円にて承ります(会社・団体は要ご相談)

《お願いごと》

・新年初詣家内安全・企業団体の年頭祈願・車輛の交通安全・安産・赤ちゃんの初宮詣・受験合格・試験合格・心願成就・神恩感謝・健康息災・厄除け(厄年一覧は下図をご覧ください)・報賽(お礼参り)・その他諸祈願

《祈願祭の式次第》

- ①号鼓……………太鼓を鳴らして祈願が始まります
 - ②一拝……………若宮八幡社の神様にご挨拶を致します
 - ③修祓……………「しゅばつ」と言い、お清めお祓い致します
 - ④献饌……………「けんせん」と言い、お供え物を奉ります
 - ⑤大祓詞奏上……………「おおはらいことば」と言います
 - ⑥祝詞奏上……………お願いごとをお取り次ぎ致します
 - ⑦金幣拝戴……………金色の幣束で神様のお徳を授けます
 - ⑧玉串奉奠……………榊に願いを込めて神様に奉ります
 - ⑨撤饌……………「てっせん」、お供え物をお下げ致します
 - ⑩一拝……………若宮八幡社の神様にご挨拶を致します
- ※祈願祭の所要時間は凡そ二十分を要します

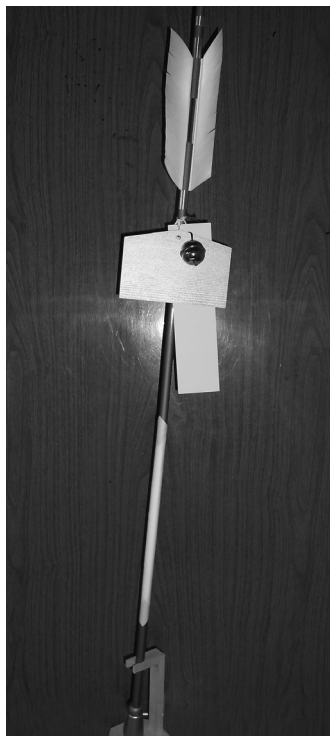
《祈願祭のお下がり》

- ・祈願神札
祈願者の芳名を揮毫して神前に弁備します
 - ・金鷹守
お守りですので常にお持ち下さい
 - ・紅白御幣
主に竈門の神様として台所にお祀り下さい
 - ・特製お箸
食事の折りにお使い下さい
 - ・五穀米
ご家庭のお米と炊き上げお召し上がり下さい
 - ・祈願絵馬
お願いごとをお書きの上、境内に掛けて下さい
 - ・金鷹鎗矢
平成三十一年初詣限定の鎗矢です
- ※祈願でお受けになりました神札やお守りは、そのお願いごとが成就した折りに若宮八幡社にお納め(お返し)になり、「報賽・かえりもうし」という所謂「お礼参り」祈願を為されますようお願い致します
- 《その他新年の初詣に際して》
金鷹山特製「朱印承り」
お札お守り縁起物などを社務所にてお頒ち致します

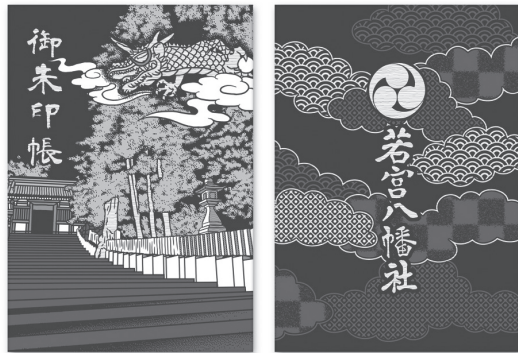


朱印帳題材・屋根の龍瓦

朱印帳風景・随神門と階段



正月限定の金鷹鎗矢



朱印帳の写真



祈願祭のお下がり

平成31年祈願祭

お願いごと

初宮詣・車輛交通安全・家内安全・受験合格
心願成就・お礼参りほか厄除け(下の一覧を参照ください)

男 性				女 性			
厄	数え年	生年	干支	厄	数え年	生年	干支
本厄	25歳	平成7年	亥	本厄	19歳	平成13年	巳
本厄	42歳	昭和53年	午	本厄	33歳	昭和62年	卯
本厄	61歳	昭和34年	亥	本厄	37歳	昭和58年	亥

平成31年祝年表(男女共通です)

還暦	61歳	昭和34年	亥	米寿	88歳	昭和7年	申
古希	70歳	昭和25年	寅	卒寿	90歳	昭和5年	午
喜寿	77歳	昭和18年	未	白寿	99歳	大正10年	酉
傘寿	80歳	昭和15年	辰	百寿	100歳	大正9年	申

祈願料 5,000円

紀田宮司携帯080-5503-3488まで

平成三十一年正月諸神事の参列勧奨 毎朝午前六時の朝御饗祭に併せて齋行

平成三十一年の正月諸神事に
つき左記に参列を勧奨申し上げます。

年末神事として、十二月三十一日(月)の夕刻午後5時から「年
越大祓・といこしのおおほらい」
を齋行致します。(詳細は4頁を
ご覧下さい)

【平成三十一年正月諸神事】

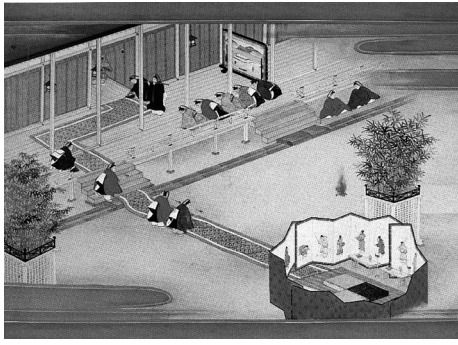
●一月一日(火・元日)午前六時
歳旦祭(さいたんさい)

一年の計は元日にあります。平成三十一年で一番最初に齋行される神事です。氏子崇敬者の安寧と皇室の彌榮を若宮八幡社の神様に希います。この神事が午前六時に齋行されることを持ちまして、毎朝神様に朝ご飯を差し上げる「朝御饗祭・あさみけさい」も年間を通して午前六時に齋行されます。

毎月一日は「朔日祭・おついたち」です。是非ともご参列下さい。

●一月三日(木)午前六時 元始祭(げんしさい)

御皇室の無窮なる安寧を若宮八幡社の神様に希う神事です。この日は遙か皇居をはじめとして全国の神社に於いてもこの元始祭が齋行されます。



元旦に皇居で齋行される四方拝

●一月 七日(月)午前六時 昭和天皇三十年祭遥拝式

激動の昭和の時代を、天皇として我が国をお守り戴かれた昭和天皇は、平成元年(昭和六十四年)の一月七日に崩御されて三十年になります。

この日は皇居に於いて昭和天皇三十年祭が齋行されるに当たり、若宮八幡社でもその遥拝式を齋行申し上げ、昭和天皇の御聖徳を偲び奉り、今ある我々の幸せに感謝申し上げます。

●一月十四日(月)・成人の日 成人祭(せいじんさい)

平成十年に生まれた善男善女たちも早いもので二十歳を迎えました。生まれたときは、氏神様で初宮詣を行い、七五三詣をなさったはずですが、それならせつかく二十歳になったのですから、若宮八幡社で成人のご祈願をお受けになりますか？

成人祭の祈願五千円にて承ります。以上の神事は全て参列が可能です。皆様方のお越しを心よりお待ちしております。



平成30年の初日の出

神職が伺っての出向祭のご紹介と勧奨 地鎮祭・上棟祭・竣工祭・屋敷祭り・神葬祭など

この度、紀田宮司が若宮八幡社に常駐することに伴い、御社頭に於ける祈願祭(赤ちゃんの初宮詣・厄除け・車の交通安全など)は勿論のこと、宮司が出向して行う「出向祭・外祭」もこれまで以上にお受けできる体制が整いました。ここでは紙面をお借りしまして、出向祭の一部につきましてご紹介また勧奨申し上げます。

【地鎮祭・じちんさい】

出向祭と言えば、一番先に思い当たるのが、この地鎮祭でしょう。

自宅や会社を新たに建築する場合は、建築する場所をお清めして、無事に竣工するように祈念します。

《地鎮祭の式次第》

- ①修祓(しゅぱつ)
お清め致します

- ②降神(こうしん)の儀
神様をお迎えます

- ③献饗(けんせん)
神様にお供え物を差し上げます

- ④祝詞奏上(のりとそうじょう)
四方祓(しほうはらい)

- ⑤土地をお清め致します

- ⑥地鎮の儀(とこしずめのぎ)
忌の鎌・鍬・鋤・杭など
を持つて工事の竣工を祈念
します

- ⑦鎮物埋納(しずめものまいのう)

- ⑧玉串奉奠(たまぐしほうてん)

- ⑨撤饗(てっせん)
お供え物をお下げします

- ⑩昇神(しょうしん)の儀
お迎えした神様には元のお社にお還り戴きます

- ⑪宮司挨拶

※地鎮祭の時間は凡そ三十分を要します
※地鎮祭にて「棟札・むなふだ」と「鎮物・しずめもの」をお頒ち致します

【その他の出向祭】

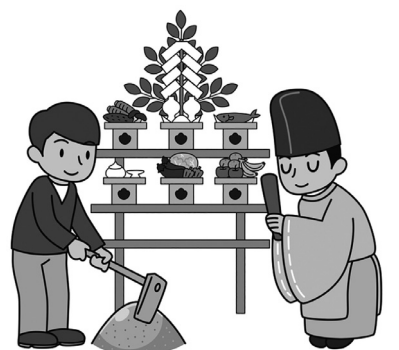
《上棟祭・じょうとうさい》

前記する地鎮祭を経て、柱が立ち上がってきたら齋行する神事です。一般的には、棟上げ(むねあげ)とも称されますが、大工さんにとっては晴れの一日と言えるでしょう。

※「棟札・むなふだ」は、若宮八幡社にて持参致します。前記する地鎮祭に於いて祭壇に弁備の上、お頒ち致しますので、上棟祭を大工さんのみで齋行されるときは、棟札を屋根裏に設置してお祀りして下さい。

《竣工祭・しゅんこうさい》

愈々建物の完成です。建物に宿る「屋船の大神様」など五柱を中心にお迎えして執り行います。神棚も設けましたら、竣工祭と同時に「神棚奉鎮祭・かみだなほうちんさい」を齋行致します。



地鎮祭イメージ

この時には、日本の総氏神様である「伊勢神宮大麻」と氏神様である「若宮八幡社大麻」の二体の御札を神棚にお祀り致します。

主に年末年始に齋行されます。自宅や会社の神棚や注連縄をお清めして清々しい年末年始を迎えましょう。

《神葬祭・しんそうさい》

神道を宗旨とされるご家庭で営まれるお葬式です。昔は自宅で齋行していましたが、現在は市内の葬祭場で齋行されます。神道を宗旨とされる方々で運営する「開運祖霊講」の組織も

ありますので、是非ともご入会をお待ちしております。(詳細は2頁をご覧ください)

以上の出向祭は、準備の関係上ご予約を戴けると幸甚に存じ上げます。



神葬祭の齋場

昔から神社は、「鎮守の森・ちんじゅのもり」と親しまれ、老若男女・善男善女の方々が、安らぎと憩いを求めて、鎮守の神様にお参りをされて来られました。

当社としても、より多くの方々に金鷹山若宮八幡社にお越し戴けるよう各種の企画を練っております。その一環として、年末年始にかけて「金鷹山フォトコンテスト」をご紹介しましたが、来春には(仮称)「金鷹山学齢児図画展」も計画しております。

フォトコンテストはどちらかというと、大人を対象にしております。

で、こちらの(仮称)「金鷹山学齢児図画展」は、子供さんを対象にと考えております。

何分にも初めての試みなので、ご相談をお願いできる方が居られましたら、是非とも伺いたく存じ上げる次第でございます。

更に将来的には、十二月の例大祭に行われておりました「若宮牛馬市」の往年の賑わいに匹敵するようなイベントも考えていきたいと思っております。こちらにつきましても、ご相談を戴ける方が居られましたら、是非ともご紹介を戴けましたら幸甚に存じ上げます。